

平成30年度 兵庫陶芸美術館運営委員会 議事概要

日 時：平成30年8月2日（木）13:30～15:00

場 所：兵庫陶芸美術館 談話室

出席者：運営委員8名、県芸術文化課2名、兵庫陶芸美術館10名

【報告、協議事項】

- 平成29年度事業実施結果、平成30年度事業計画
- 今後の特別展等、運営のあり方について

【意見】

〔「夏休み！1日まるごとこどもの日」のイベントについて〕

- 7月22日(日)に「夏休み！1日まるごとこどもの日」のイベントを開催し、今年は多くの参加者があった。陶芸というと親子ではなかなか行けないが、親子を対象に日曜日に開催したことが良かった。年1回から、3ヶ月に1回、月に1回、というように回数を増やしていくと、行けば何かやっていることが口コミで広がり来場者として定着していくのではないか。

〔丹波焼の里と篠山城下町を結ぶ直通バスの運行について〕

- バスを使う人の多くは電車の利用者であり、高齢者を中心にもっとこのようなアクセスがあることを知ってもらう努力を地道に続ける必要がある。

〔日本遺産認定を受けた取組みについて〕

- 丹波焼が日本六古窯のひとつとして日本遺産認定を受けたことを受けて、小学校などを対象にしたやきもの出前講座にも力を入れていくとのことであるが、小学生の間に土に触れる機会を持つことは大事なことである。

〔窯元路地歩きについて〕

- 窯元を訪ねることは、一般的には窯元としては邪魔されるとして抵抗があるものであるが、丹波焼の里では窯元の協力を得て路地歩きなどでしっかりと対応されており、お客様にも喜んでいただいている。

〔参加型の展覧会について〕

- 最近の展覧会では一方的に展示を観るだけでなく、コンピュータを使った参加型・体験型のものに人々が反応している傾向がある。既存の作品でも来館者に見せる工夫、楽しめる工夫にも力を入れる必要がある。

〔外国人を含めた対外的な丹波焼の里の情報発信について〕

- 外国人の中には日本の伝統文化に関心の高い人がおり、そういった人を取り込んで行くことが大事である。
- やきものの里の路地裏で見られる、工房と母屋が隣接していて、生活と創作が一緒になっている独特な景色・雰囲気、SNSなどを通して発信していければ、丹波焼の里の魅力が伝わるのではないか。